(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2017-210799
(P2017-210799A)
(43)公開日　平成29年11月30日(2017.11.30)

(51)Int.Cl.		F I		テーマコード（参考）
E04H 15/58	(2006.01)	E04H 15/58	A	2E141

審査請求 有　請求項の数 6　ＯＬ　（全 12 頁）

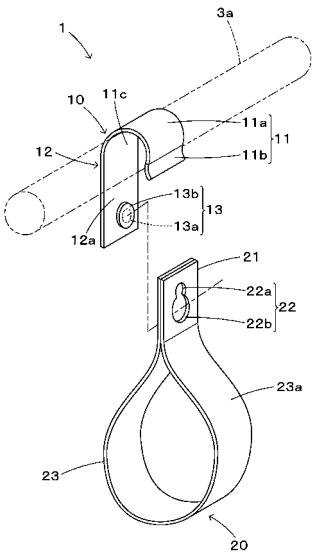
(21)出願番号　特願2016-104799 (P2016-104799)
(22)出願日　平成28年5月26日 (2016.5.26)
(11)特許番号　特許第6167204号 (P6167204)
(45)特許公報発行日　平成29年7月19日 (2017.7.19)

(71)出願人　593178409
株式会社オーティス
大阪府大阪市天王寺区餌差町１０番２９号
(74)代理人　100087664
弁理士　中井　宏行
(72)発明者　北村　昌司
大阪府東大阪市横枕南５番３号　株式会社オーティス内

Ｆターム(参考)　2E141 GG10

(54)【発明の名称】軒樋支持具

(57)【要約】
【課題】簡単な構造に構成でき、かつ、軒樋支持具のテントへの取り付けも、軒樋の軒樋支持具への取り付けも簡易にできる軒樋支持具を提供する。
【解決手段】軒樋支持具１は、テント３の固定フレーム３ａに引っ掛ける掛部１１と、掛部１１の端部より下方に延びた上連結部１２とを備えた掛部材１０、および、軒樋２が挿入されるリング状の樋支持部２３と、樋支持部２３の上端側に配された、上連結部１２と連結する下連結部２１とを備えた樋支持部材２０を備えている。
【選択図】図１



【特許請求の範囲】
【請求項１】
テントを固定するために軒先側に架設された固定フレームに掛け下げられ、軒樋をその長手方向の複数個所で支持する軒樋支持具であって、
前記固定フレームに引っ掛ける掛部と、該掛部の端部より下方に延びた上連結部とを備えた掛部材、および
軒樋が挿入されるリング状の樋支持部と、該樋支持部の上端側に配された、前記上連結部と連結する下連結部とを備えた樋支持部材を備えたことを特徴とする軒樋支持具。
【請求項２】
請求項１において、
前記上連結部と、前記下連結部との連結、分離が自在とされることを特徴とする軒樋支持具。
【請求項３】
請求項１または２において、
前記上連結部および前記下連結部のいずれか一方に係合突部が形成され、他方に該係合突部と係合する係合受部が形成されていることを特徴とする軒樋支持具。
【請求項４】
請求項１～３のいずれか１項において、
前記樋支持部材のすくなくとも前記樋支持部が柔軟な材料で形成されていることを特徴とする軒樋支持具。
【請求項５】
請求項４において、
前記樋支持部は２本の帯状材よりなり、それぞれに面ファスナーが付加されており、両帯状材の前記平面ファスナーによる重ね連結によりリング状に形成される構成とされ、かつ、両帯状材の連結の重ね代の長さを可変としたことを特徴とする、軒樋支持具。
【請求項６】
請求項１～５のいずれか１項において、
前記樋支持部材との連結、分離が自在とされた、前記掛部材と略同形状の第２掛部材をさらに有した構成とされており、
前記掛部材と前記第２掛部材とは、前記上連結部どうしで前記樋支持部材の前記下連結部を挟み込んだ状態で、かつ、前記掛部の開放端部を相互に離反した位置に配した状態で連結されることを特徴とする軒樋支持具。

【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、テントの軒先に取り付けられる軒樋を支持する軒樋支持具に関する。
【背景技術】
【０００２】
屋外に設置されるテントには軒樋が取り付けにくく、一般住宅に用いる軒樋（たとえば、特許文献１参照）を用いようとすれば、軒樋支持具を固定するための構造物をテントに付加する必要がある。なお、テント専用の軒樋として、軒樋とそれをテントに吊り支持するための軒樋支持具が一体となった軒樋セットが提案されている（たとえば、特許文献２参照）。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００３】
【特許文献１】特開２００２－３３２７２９号公報

【特許文献２】特開２００３－９７０９７号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００４】
しかしながら、テントは一時的に設置するものであるため、時間をかけてテントに構造物を付加して軒樋を取り付けても、テント設営中に雨が降らず、無用となる可能性がある。その一方で、雲行きが怪しくなってから軒樋を取り付けようとすれば、取り付けに時間がかかり間に合わないおそれがある。
【０００５】
また、軒樋セットを用いる場合は、取り付けは多少しやすくなるが、利用頻度は少なく費用対効果が低いものであるから、テントのためにわざわざ軒樋セットを購入することがためらわれる。
【０００６】
ようするに、上述した内容から判断すれば、テントへの軒樋の取り付けの条件としては、軒樋や軒樋支持具が簡単な構成であること、それらを簡易に設置できることが求められる。
【０００７】
本発明は、このような事情を考慮して提案されたもので、その目的は、簡単な構造に構成でき、かつ、軒樋支持具のテントへの取り付けも、軒樋の軒樋支持具への取り付けも簡易にできる軒樋支持具を提供することにある。
【課題を解決するための手段】
【０００８】
上記目的を達成するために、請求項１に記載の軒樋支持具は、テントを固定するために軒先側に架設された固定フレームに掛け下げられ、軒樋をその長手方向の複数個所で支持する軒樋支持具であって、固定フレームに引っ掛ける掛部と、掛部の端部より下方に延びた上連結部とを備えた掛部材、および、軒樋が挿入されるリング状の樋支持部と、樋支持部の上端側に配された、上連結部と連結する下連結部とを備えた樋支持部材を備えたことを特徴とする。
【０００９】
請求項２に記載の軒樋支持具は、上連結部と、下連結部との連結、分離が自在とされることを特徴とする。
【００１０】
請求項３に記載の軒樋支持具は、上連結部および下連結部のいずれか一方に係合突部が形成され、他方に該係合突部と係合する係合受部が形成されていることを特徴とする。
【００１１】
請求項４に記載の軒樋支持具は、樋支持部材のすくなくとも樋支持部が柔軟な材料で形成されていることを特徴とする。
【００１２】
請求項５に記載の軒樋支持具は、樋支持部が２本の帯状材よりなり、それぞれに面ファスナーが付加されており、両帯状材の平面ファスナーによる重ね連結によりリング状に形成される構成とされ、かつ、両帯状材の連結の重ね代の長さを可変としたことを特徴とする。
【００１３】
請求項６に記載の軒樋支持具は、樋支持部材との連結、分離が自在とされた、掛部材と略同形状の第２掛部材をさらに有した構成とされており、掛部材と第２掛部材とは、上連結部どうしで樋支持部材の下連結部を挟み込んだ状態で、かつ、掛部の開放端部を相互に離反した位置に配した状態で連結されることを特徴とする。
【発明の効果】
【００１４】
請求項１に記載の軒樋支持具によれば、上述した構成となっているため、簡単な構造に

構成でき、かつ、軒樋支持具のテントへの取り付けも、軒樋の軒樋支持具への取り付けも簡易にできる。その結果、製造コストおよび施工コストを低減化することができる。また、樋支持部材の樋支持部を従来一般住宅に使用されていた軒樋の形状に合わせれば、従来の軒樋をそのまま利用することができる。

【００１５】

請求項２に記載の軒樋支持具によれば、上連結部と下連結部との連結、分離が自在となっているため、これらの組み合わせを種々変えることで、さまざまな態様の軒樋施工を実施できる。また、上連結部の上下方向の寸法が種々異なる掛部材を用いれば、水勾配に対応させることもできる。

【００１６】

請求項３に記載の軒樋支持具によれば、上述した構成となっているため、上連結部と下連結部との連結、分離の構造を簡易なものとすることができる。

【００１７】

請求項４に記載の軒樋支持具によれば、上述した構成となっているため、種々の形状、寸法の軒樋に対応させることができる。

【００１８】

請求項５に記載の軒樋支持具によれば、上述の構成となっているため、リング状の樋支持部を種々の寸法にすることができる。つまり、樋支持部材の下端位置が可変となるため、複数の軒樋支持具の下端位置を傾斜させるようにして、水勾配を設定することができる。

【００１９】

請求項６に記載の軒樋支持具によれば、上述の構成となっているため、複数のテントを並べた場合に相互に隣接する軒先間にも、両方の固定フレームに掛け下げるようにして取り付けることができる。そのため、軒先間の隙間から落下する雨水にも対応することができる。

【図面の簡単な説明】

【００２０】

【図１】本発明の一実施形態に係る軒樋支持具の分解斜視図である。

【図２】（ａ）（ｂ）は、図１の軒樋支持具の連結手順を示す部分縦断面図である。

【図３】（ａ）は図１の軒樋支持具を取り付けるテントの斜視図、（ｂ）は軒樋支持具をテントに取り付けた状態における（ａ）のＡ－Ａ線に対応した拡大縦断面図である。

【図４】本発明の他の実施形態に係る軒樋支持具の説明図である。（ａ）は軒樋支持具の樋支持部材の正面図、（ｂ）は使用態様を異ならせた２つの軒樋支持具の比較図である。

【図５】本発明のさらに他の実施形態に係る軒樋支持具の説明図である。（ａ）は軒樋支持具の一部を断面とした分解正面図、（ｂ）は同一部を断面とした正面図である。

【図６】図５の軒樋支持具の取付対象とされるテントの設置態様（２連式テント群）を示した正面図である。

【発明を実施するための形態】

【００２１】

以下に、本発明の実施の形態について、添付図面をもとに説明する。まず、以下に説明する軒樋支持具１の共通的な基本構成について説明する。なお、軒樋支持具１が取り付けられるテント３を図３（ａ）に示し、２つのテント３を並べてなる２連式テント群５を図６（ａ）に示した。

【００２２】

これらの軒樋支持具１は、テント３を固定するために軒先側に架設された固定フレーム３ａに掛け下げられ、軒樋２をその長手方向の複数個所で支持するように構成された支持具である。これらの軒樋支持具１は、固定フレーム３ａに引っ掛ける掛部１１と、掛部１１の端部より下方に延びた上連結部１２とを備えた掛部材１０、および、軒樋２が挿入されるリング状の樋支持部２３と、樋支持部２３の上端側に配された、上連結部１２と連結する下連結部２１とを備えた樋支持部材２０を備えた構成となっている。

【００２３】
そして、これらの軒樋支持具１はいずれも、上連結部１２と下連結部２１との連結、分離が自在とされ、それによって掛部材１０と樋支持部材２０とが分離可能に連結されることで使用されるようになっている。なお、掛部材１０と樋支持部材２０とは分離できない状態に結合されたものでもかまわないが、分離可能とすることが取り扱いのうえで望ましい。
【００２４】
このような軒樋支持具１によれば、上記のような構成となっているため、軒樋支持具１を簡単な構造に構成でき、その結果、製造コストを低く抑えることができる。また、軒樋支持具１が上記のような構成となっているため、軒樋支持具１のテント３への取り付けも、テント３へ取り付けた軒樋支持具１への軒樋２の取り付けも簡易に行うことができる。そのため、施工コストもあまりかからない。
【００２５】
ついで、各実施形態に係る軒樋支持具１の詳細について、以下に順に説明する。
【００２６】
図１の軒樋支持具１は、上述したように、掛部材１０と樋支持部材２０とが分離可能に連結されたものである。
【００２７】
掛部材１０は、図１に示すように、固定フレーム３ａに吊り下げるために下方側が凹湾曲したフック形状の掛部１１と、その掛部１１の端部より連成されて下方に延びた上連結部１２とを備えている。なお、掛部１１と上連結部１２とは図１のように連成一体化されており、特に境界部はない。このような連成一体化の構成は成形が簡易となるので望ましい。
【００２８】
図１に例示した掛部材１０の掛部１１は、本体部１１ａがテント３の固定フレーム３ａの断面外形に合致し、上方に突出した略半円（半円よりもやや大きめ）の形状とされる。その本体部１１ａの開放側の端部には凹所１１ｃへの固定フレーム３ａの装着をガイドするガイド片１１ｂが形成されている。つまり、掛部１１の凹所１１ｃに固定フレーム３ａが嵌まり込むように掛部１１を押し下げた際に、固定フレーム３ａの押圧により、本体部１１ａが半円よりもやや大きめであるためガイド片１１ｂおよび本体部１１ａの端部が外側に開くように弾性変形し、固定フレーム３ａが凹所１１ｃに完全に嵌まり込んだときには、概ね元の状態に復帰する。
【００２９】
なお、掛部１１の形状は固定フレーム３ａの断面外形に合致したものが望ましく、種々の形状の固定フレーム３ａに合わせて種々の形状が許容されることは言うまでもない。
【００３０】
上連結部１２は、板状の本体部１２ａと、その板面に形成された係合突部１３とを有してなり、本体部１２ａが後述する樋支持部材２０の下連結部２１と重なるように連結される構成となっている。連結構造の詳細については、下連結部２１の説明とともに後述する。
【００３１】
一方、図１に例示した樋支持部材２０は、柔軟な１本の帯状材２３ａの端部どうしが固着されて、固着された部位が板状に構成され、固着された部位よりも下方の部位がリング状に形成されている。上部の固着部位が下連結部２１とされ、リング状の部位が軒樋２を挿通する樋支持部２３とされる。
【００３２】
下連結部２１は、掛部材１０の上連結部１２としっかりと結合できるように、金属板などを挟み込んで硬質化されていることが望ましい。この下連結部２１には、上連結部１２に形成された係合突部１３と係合する係合受部２２を備えている。
【００３３】

図１および図２に示すように、係合突部１３は径小なネック部１３ａと、その外側に配された径大な円板部１３ｂとを有してなる一方、係合受部２２は径小孔２２ａと径大孔２２ｂとを上下に連結したダルマ状の開口孔よりなる。係合突部１３の円板部１３ｂの径は、係合受部２２の径大孔２２ｂの径より小とされ、径小孔２２ａの径よりも大とされる。一方、ネック部１３ａの径は径小孔２２ａの径と略同一か、それよりもやや小とされる。

【００３４】

掛部材１０と樋支持部材２０とは、図２（ａ）（ｂ）に示すように、係合突部１３が係合受部２２の径大孔２２ｂに挿通され、上方に相対移動してネック部１３ａが径小孔２２ａに配されることで連結状態となり、樋支持部材２０が掛部材１０に吊り下げられた状態となる。

【００３５】

なお、係合突部１３が樋支持部材２０の下連結部２１に形成され、係合受部２２が掛部材１０の上連結部１２に形成されたものであってもよい。その場合、係合受部２２のダルマ孔は逆さダルマ孔とされる。また、係合突部１３および係合受部２２は他の構造であってもよい。

【００３６】

また、樋支持部２３および下連結部２１は板状でなくてもよい。特に、樋支持部２３はすくなくともリング状に形成されて軒樋２を支持する構成であればよく、たとえば紐材で形成されたリング体であってもよい。

【００３７】

このような軒樋支持具１は、複数のものが図３（ａ）に例示したようなテント３の軒先に離間状態に取り付けられ、それらで軒樋２を支持するようになっている。

【００３８】

具体的には図３（ｂ）に示すように、軒樋支持具１は、その掛部材１０の掛部１１がテント３の固定フレーム３ａに引っ掛けられて吊り下げられ、樋支持部材２０の樋支持部２３のリングに軒樋２が挿通されて支持されるようになっている。軒樋支持具１でこのように軒樋２を支持することで、軒樋２はテント３の幕材３ｂの前垂れ部３ｄの下端の略真下に位置するようになる。

【００３９】

こうして、幕材３ｂの屋根面部３ｃ、前垂れ部３ｄを伝ってくる雨水を軒樋２で受け止めることができる。また、複数の軒樋支持具１により軒樋２の水勾配を設定することで、軒樋２を傾斜状態に設置することができる。その結果、軒樋２に落下した雨水を長手方向に沿って流し、いずれかの支柱３ｅ側に落下させることができる。

【００４０】

軒樋２としてテント３用の小さめのものを取り付けてもよいが、本実施形態の軒樋支持具１は樋支持部材２０として柔軟な材料が使ってあるので、一般住宅で使用される種々の寸法、形状の軒樋２を設置することもできる。また、軒樋支持具１は固定フレーム３ａに引っ掛けるだけで設置でき、かつ軒樋２は樋支持部２３に挿通するだけで設置できるので、雨が降り始めてからでも十分に間に合う。

【００４１】

複数の軒樋支持具１で水勾配を設定するためには、上下方向の寸法（たとえば上連結部１２の上下寸法）が異なる掛部材１０を同一形状の樋支持部材２０に組み合わせることで、樋支持部材２０の下端位置を軒樋支持具１間で異ならせるようにすればよい。また、係合突部１３や係合受部２２の位置を異ならせた部材を種々組み合わせた軒樋支持具１を用いてもよい。さらに、樋支持部材２０の係合受部２２を上下方向に複数設けて調整できるようにしてもよい。

【００４２】

図４（ａ）（ｂ）は、軒樋２を傾斜状態に容易に設置できるようにした軒樋支持具１の説明図である。この軒樋支持具１の樋支持部材２０は、柔軟な２本の帯状材２０ａを用いて構成されている。なお、掛部材１０は図１のものと同形状であり、図示および説明を省

略する。

【００４３】

具体的には、ほぼ同長さの柔軟な２本の帯状材２０ａの上部どうしを固着して下連結部２１が形成されている。そして、帯状材２０ａの樋支持部２３を構成する部分は面ファスナー２４が付加されて、その面ファスナー２４で連結、分離が可能となっている。つまり、一方の帯状材２０ａのいずれか一方（図４において右側）の面に一対のファスナー部材２４ａ、２４ｂのうちの一方のファスナー部材２４ａが固着され、他方の帯状材２０ａの同一向きの面に他方のファスナー部材２４ｂが固着されている。

【００４４】

このように、この樋支持部材２０は、面ファスナー２４を用いて帯状材２０ａを図４のように連結、分離できるようになっており、さらに連結の際には、両帯状材２０ａの連結の重ね代の長さを変えられるようになっている。つまり、リングの大きさを変えられるようになっている。

【００４５】

図４（ｂ）に示すように、テント３の軒先に掛け下げる２つの軒樋支持具１の一方は両帯状材２０ａの連結の重ね代の長さを長くし、他方は両帯状材２０ａの連結の重ね代の長さを短くすることで、リングの大きさを異ならせ、そうすることで軒樋２を取り付けたときの下端の位置を寸法差Ｓ分、異ならせることができる。こうして、軒樋２を、水勾配を考慮した傾斜状態に設置することができる。

【００４６】

なお、面ファスナー２４の代わりに、衣服の合わせ部分などに用いられるホックを用いて重ね代の長さを異ならせるようにすることもできる。

【００４７】

ついで、さらに他の軒樋支持具１について、図５および図６を参照して説明する。この軒樋支持具１は、図６に示したような、２つのテント３の軒先どうしを近接して並べて設置した２連式テント群５の軒先間５ａに取り付けられる。

【００４８】

この軒樋支持具１は、樋支持部材２０との連結、分離が自在とされた、図１示した掛部材１０と略同形状の第２掛部材１０Ａをさらに有した構成とされている。掛部材１０および第２掛部材１０Ａは互いに同形状とされ、それぞれが掛部１１と上連結部１２とを有している。本実施形態では、それらの各上連結部１２に径小孔１４ａと径大孔１４ｂとよりなる係合受部１４（逆さダルマ孔）が形成されている。

【００４９】

また、樋支持部材２０は、樋支持部２３と下連結部２１とを有して図１のものと概ね同形状とされるが、下連結部２１には、掛部材１０および第２掛部材１０Ａを連結するための２つの係合突部２５が相反する面に形成されている。この係合突部２５は、図１の軒樋支持具１の係合突部１３と同様、ネック部２５ａと円板部２５ｂとより構成されている。

【００５０】

具体的には、図５（ａ）（ｂ）に示すように、掛部材１０と第２掛部材１０Ａとは、上連結部１２どうしで樋支持部材２０の下連結部２１を挟み込んだ状態で、かつ、掛部１１の開放端部（ガイド片１１ｂ側の端部）を相互に離反した位置に配した状態で、それぞれの係合受部１４に対応した下連結部２１の係合突部２５が係合することで、樋支持部材２０を含んで３部材が連結される。

【００５１】

図５に示した軒樋支持具１は、図６の２連式テント群５のテント３の軒先間５ａの近傍部に設置される。具体的には、軒樋支持具１は、その掛部材１０が一方のテント３（図６において左側）の軒先の固定フレーム３ａに掛け下げられ、第２掛部材１０Ａが他方のテント３（同右側）の軒先の固定フレーム３ａに掛け下げられて、その下方の樋支持部材２０で軒樋２を支持する構成となっている。

【００５２】

このように、図５の軒樋支持具１を用いれば、テント３を連設した２連式テント群５の軒先間５ａにも軒樋２を安定状態で取り付けることができる。また、図６（ａ）に示したような軒先間５ａには２つのテント３による多くの雨水が流れるおそれがあるため、幅広で大きな軒樋２Ａを取り付けることが望まれるが、そのような大きな軒樋２Ａを吊り支持する場合でも、本軒樋支持具１であれば、安定的に支持することができる。

【００５３】

なお、図６（ａ）のような２連式テント群５の軒先間５ａに軒樋２を取り付ける場合であっても、図１に示した、掛部材１０を１つのみ有した軒樋支持具１を用いることもできる。

【００５４】

以上の種々の実施形態には、掛部材１０（第２掛部材１０Ａを含む）の掛部１１、上連結部１２が一体となったものを示したが、それぞれに対応した２つの部材を結合させた構成であってもよい。また、樋支持部材２０についても、下連結部２１と樋支持部２３に対応して上下２つの部材を結合した構成であってもよい。

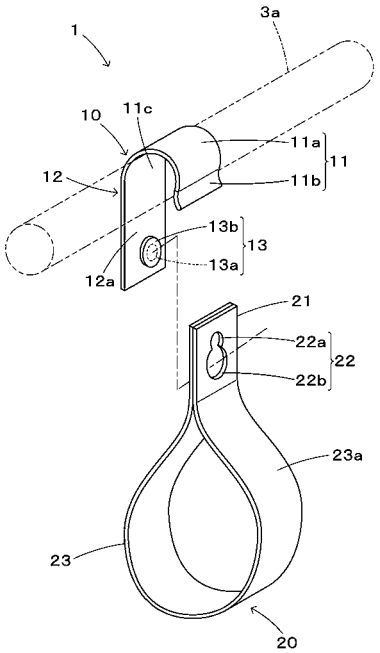
【符号の説明】

【００５５】

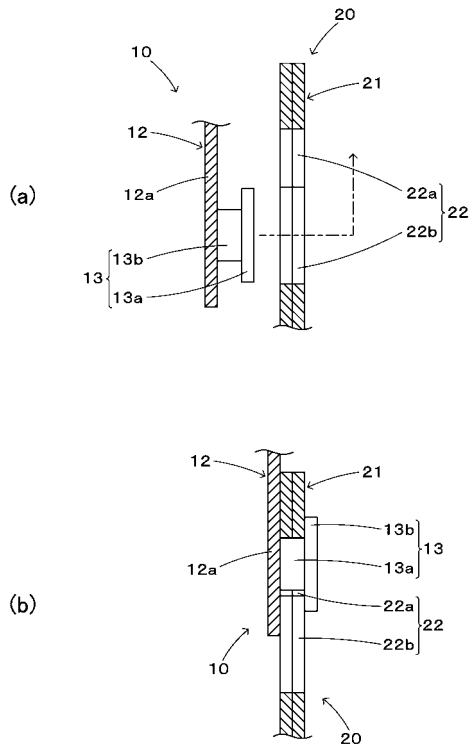
１	軒樋支持具
１０	掛部材
１０Ａ	第２掛部材
１１	掛部
１１ａ	本体部
１１ｂ	ガイド片
１１ｃ	凹所
１１ｄ	開放端部
１２	上連結部
１２ａ	本体部
１３	係合突部
１３ａ	ネック部
１３ｂ	円板部
１４	係合受部
１４ａ	径小孔
１４ｂ	径大孔
２０	樋支持部材
２０ａ	帯状材
２１	下連結部
２２	係合受部
２２ａ	径小孔
２２ｂ	径大孔
２３	樋支持部
２４	面ファスナー
２４ａ	ファスナー部材
２４ｂ	ファスナー部材
２５	係合突部
２５ａ	ネック部
２５ｂ	円板部
２	軒樋
３	テント
３ａ	固定フレーム
３ｂ	幕材
３ｃ	屋根面部

３ｄ　前垂れ部
３ｅ　支柱
５　２連式テント群
５ａ　軒先間

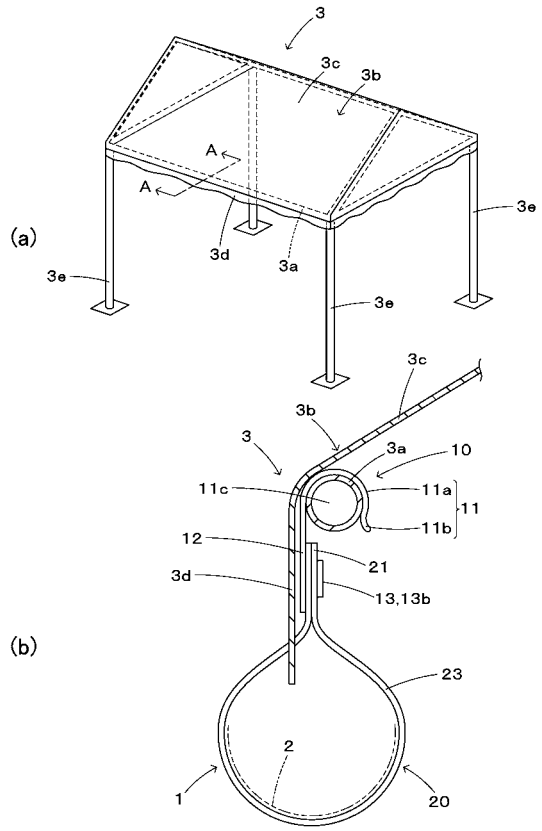
【図１】



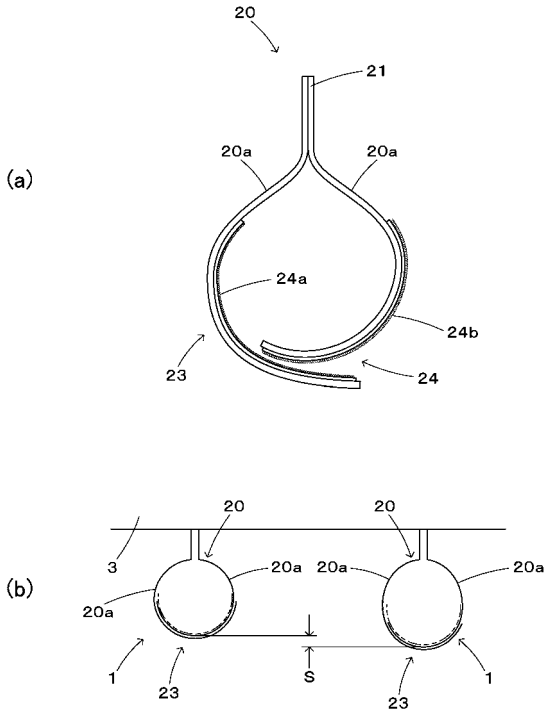
【図２】



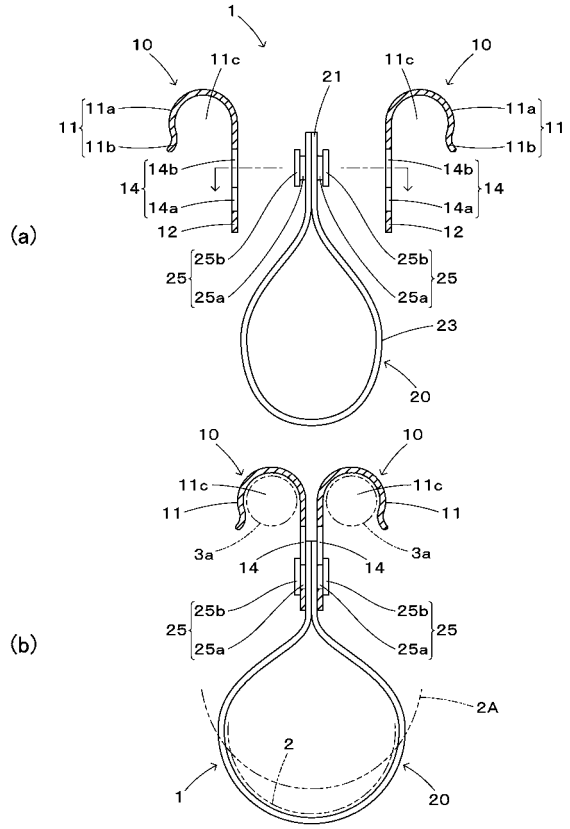
【図３】


(a)
(b)
3
3c
3b
A
A
3d
3a
3e
3e
3e
3c
3b
3
3a
10
11c
11a
11
11b
12
21
3d
13,13b
23
2
1
20

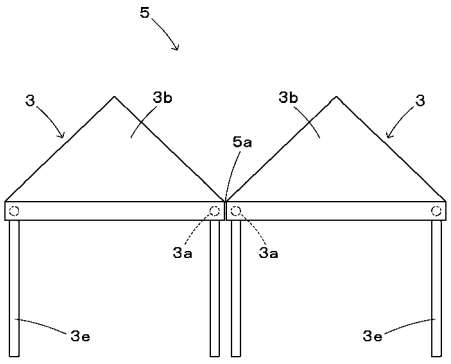
【図４】


(a)
(b)
20
21
20a
20a
24a
24b
23
24
20
20
3
20a
20a
20a
20a
1
23
S
23
1

【図５】


(a)
(b)
1
10
11c
21
11c
10
11a
11
11b
11a
11
11b
14b
14
14a
14b
14
14a
12
12
25b
25
25a
25b
25
25a
23
20
10
10
11c
11c
11
11
3a
14
14
3a
25b
25
25a
25b
25
25a
2A
2
1
20

【図６】


5
3
3b
3b
3
5a
3a
3a
3e
3e

【手続補正書】
【提出日】平成29年3月22日(2017.3.22)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
テントを固定するために軒先側に架設された固定フレームに掛け下げられ、軒樋をその長手方向の複数個所で支持する軒樋支持具であって、
前記固定フレームに引っ掛ける掛部と、該掛部の端部より下方に延びた上連結部とを備えた掛部材、および
軒樋が挿入されるリング状の樋支持部と、該樋支持部の上端側に配された、前記上連結部と連結する下連結部とを備えた樋支持部材を備えたことを特徴とする軒樋支持具。
【請求項２】
請求項１において、
前記上連結部と、前記下連結部との連結、分離が自在とされることを特徴とする軒樋支持具。
【請求項３】
請求項１または２において、
前記上連結部および前記下連結部のいずれか一方に係合突部が形成され、他方に該係合突部と係合する係合受部が形成されていることを特徴とする軒樋支持具。
【請求項４】
請求項１～３のいずれか１項において、
前記樋支持部材のすくなくとも前記樋支持部が柔軟な材料で形成されていることを特徴とする軒樋支持具。
【請求項５】
請求項４において、
前記樋支持部は２本の帯状材よりなり、それぞれに面ファスナーが付加されており、両帯状材の前記面ファスナーによる重ね連結によりリング状に形成される構成とされ、かつ、両帯状材の連結の重ね代の長さを可変としたことを特徴とする、軒樋支持具。
【請求項６】
請求項１～５のいずれか１項において、
前記樋支持部材との連結、分離が自在とされた、前記掛部材と略同形状の第２掛部材をさらに有した構成とされており、
前記掛部材と前記第２掛部材とは、前記上連結部どうしで前記樋支持部材の前記下連結部を挟み込んだ状態で、かつ、前記掛部の開放端部を相互に離反した位置に配した状態で連結されることを特徴とする軒樋支持具。

【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１２】
請求項５に記載の軒樋支持具は、樋支持部が２本の帯状材よりなり、それぞれに面ファスナーが付加されており、両帯状材の面ファスナーによる重ね連結によりリング状に形成される構成とされ、かつ、両帯状材の連結の重ね代の長さを可変としたことを特徴とする。